Conference

グローバルプレーヤーとしての日本の成否を問う

── 富士通総研・MIT・ゲッティンゲン大学共同研究東京会議の模様 ──

富士通総研は、去る６月28日、東京国際フォーラムにおいて、米国マサチューセッツ工科大学及びドイツ・ゲッティンゲン大学との共同による国際会議を開催した。当日は、総勢150名の聴衆が参加、内外のグローバリゼーション・スタディに関する第一線の研究者を講師として招聘し、日・米・独を中心とする多国籍企業の行動につき活発な討論を行った。本稿はその概要を記したものである。

共同研究の目的

富士通総研は、1999年以降、米国マサチューセッツ工科大学インダストリアル・パフォーマンス・センター及びドイツ・ゲッティンゲン大学社会科学研究所と協力し、「グローバリゼーション・スタディ・プロジェクト」を実施している。本共同研究は、３年間の中期研究プロジェクトで、今回はその中間結果の一部を東京会議において報告したものである。

今回の会議は、「グローバルプレーヤーとしての日本の成否を問う ── 産業経済及び国民経済的視点から」というテーマで行われた。グローバリゼーションが急速なペースで深化している中で、日本経済は依然長い低迷を余儀なくされているが、米国経済は、情報通信技術やバイオ分野における技術革新を成功裏に吸収消化し、新しい経済システムを構築しつつある。このような日本と米国、更にはドイツとの間に存在する経済モデルの違いを認識し、主要プレーヤーである多国籍企業の行動分析を通じて、グローバリゼーションの深化を理解するのが共同研究の目的である。

会議の概要

会議では、冒頭福井富士通総研理事長が、「日本の経済社会がこれからどのような変革を遂げれば真にグローバルプレーヤーとなりえるのか。多国籍企業に焦点を当てながら考えようという本会議の趣旨は、まことに時宜を得たものであり是非積極的な討議をお願いしたい」と挨拶、続いてレスター・ MIT インダストリアル・パフォーマンス・センター所長のオープニング・スピーチが行われた（詳細別項）。第１セッションでは、日本の多国籍企業の行動につき４名の研究者による報告が行われ、続い

主任研究員
栗　原　　潤

て第２セッションでは、日・米・独の多国籍企業の比較を中心としたパネルディスカッションが行われた。最後に、バーガー MIT 教授のクロージング・アドレスで会議を締め括った（詳細別項）。

第１セッション：日系多国籍企業の立地再編と組織再編

第１セッションでは、「日系多国籍企業の立地再編と組織再編」というテーマで、国内の研究者３人 ── 藤本隆宏東京大学教授、浦田秀次郎早稲田大学教授、依田直也立正大学教授 ── が報告、引き続き立木デニス前富士通総研主任研究員（現玉川大学教授）から全体を総括した報告がなされた。

藤本教授は、良質な製品を生み出す capability building を更に強化する一方で、その capability building を効率的に活用する strategic management を模索するという、日系自動車メーカーにとっての言わば両面作戦（a double-sided plan）の重要性を指摘した。浦田教授は、エレクトロニクス分野における技術革新の重要性に注目し、グローバリゼーションが進展するなか優秀な研究者をどう確保し活用するか、生産ネットワークが国際的かつ分散的に形成されるなか日系企業の競争力をどのように維持・発展すべきかにつき指摘した。依田教授は、繊維関連企業におけるナノテクノロジー、バイオ、情報通信といった技術戦略の重要性とともに、アジアという経済圏に注目し、EU に類似した統一市場の概念及び機構を念頭においた市場統合戦略の必要性を説いた。最後に立木前主任研究員は、アジア金融危機以降の日系多国籍企業のアジアでの活動につき、日系多国籍企業の生産ネットワークは危機以降においてもアジア域内で強化されており、今後ともその方向を堅持する必要性を指摘した。

第２セッション：多国籍企業の地域戦略

第２セッションでは、日米独の多国籍企業の地域戦略の比較を主眼に、スタージョン・ MIT 主任、ヴィトケ・ゲッティンゲン大学教授、久武京都大学助教授、田中経済産業研究所副所長の４人によるパネルディスカッションが行われた。スタージョン主任は、NAFTA を中心に展開される米系多国籍企業による新しいグローバリゼーシ

Conference

ョン戦略について報告、ヴィトケ教授及び久武助教授は、それぞれドイツ系多国籍企業の旧東欧共産圏諸国への進出と問題点、日系多国籍企業からみたアジアとの戦略的補完関係につき報告した。その後、これらの論点につき若干の討論が行われ、最後に田中副所長から、日本における新しい産業基盤育成に関し、技術革新、新規参入企業育成、再編された経済産業省の政策的課題等を中心にコメントがなされた。

おわりに

本会議は、富士通総研が米独の研究機関と開催した初めての本格的な国際会議である。内外の優れた研究者の協力もあって、半日という短いコンファランスではあったが、極めて実り多い成果を上げることができた。本共同研究は３年プロジェクトであるが、これまでの研究により、多国籍企業のグローバル化戦略に関する新たな知見が加わるとともに、新しい研究課題も生まれるなど、着実に成果が上がってきている。富士通総研としても、本研究の完成を目指し、今後とも MIT 等との協力関係の一層の強化を図るとともに、国内研究者も含めた研究活動のネットワーク化に注力していきたい。

PROGRAM／プログラム

Registration	**12:30〜13:00**	**登　録**
Opening Address Toshihiko Fukui, Chairman, Fujitsu Research Institute (FRI)	**13:00〜13:15**	**「開会の辞」** **富士通総研 理事長 福井 俊彦**
MIT IPC Globalization Study Richard K. Lester, Director MIT Industrial Performance Center (MIT-IPC)	**13:15〜13：30**	**「MIT グローバリゼーション・スタディ」** MIT **インダストリアル・パフォーマンス・センター所長** **リチャード・K・レスター**
Session I: **Relocation and Reorganization of Japanese Industries** Chair: Jun Kurihara, Research Fellow, FRI	**13:30〜15:00**	**第１セッション** **「日系多国籍企業の立地再編と組織再編」** **司会 富士通総研 主任研究員 栗原 潤**
Automobile Industry Takahiro Fujimoto, Professor, University of Tokyo		**「自動車産業」** **東京大学教授 藤本 隆宏**
Electronics Industry Shujiro Urata, Professor, Waseda University		**「エレクトロニクス産業」** **早稲田大学教授 浦田 秀次郎**
Textile Industry Naoya Yoda, Professor, Rissho University		**「繊維産業」** **立正大学教授 依田 直也**
Globalization of Japanese MNCs Dennis Tachiki, Research Fellow, FRI		**「日系多国籍企業のグローバリゼーション」** **富士通総研 主任研究員 立木 デニス**
Coffee Break	**15:00〜15:30**	**コーヒー・ブレイク**
Session II: Panel Discussion **Regional Strategies in the Globalization of MNCs** Chair: Jun Kurihara, Research Fellow, FRI	**15:30〜17:15**	**第２セッション：パネル・ディスカッション** **「多国籍企業の地域戦略」** **司会 富士通総研 主任研究員 栗原 潤**
American MNCs and NAFTA Timothy J. Sturgeon, Executive Director MIT-IPC Globalization Study		**「米系多国籍企業と NAFTA 戦略」** MIT インダストリアル・パフォーマンス・センター グローバリゼーション・スタディ**主任** **ティモシー・J・スタージョン**
German MNCs and Eastern Europe Volker Wittke, Professor, SOFI, University of Götingen		**「ドイツ系多国籍企業と東欧戦略」** **ゲッティンゲン大学教授 フォルカー・ヴィトケ**
Japanese MNCs and Asia Masahito Hisatake, Associate Professor, Kyoto University		**「日系多国籍企業とアジア戦略」** **京都大学助教授 久武 昌人**
Commentator-From Japan's Policy Perspectives Nobuo Tanaka, Vice President, Research Institute of Economy, Trade and Industry (RIETI)		**「コメント ── 日本の政策的視点から」** **独立行政法人 経済産業研究所 副所長 田中 伸男**
Comments and Q&A		**コメント及び質疑応答**
Closing Address **Suzanne Berger, Professor, MIT-IPC**	**17:15〜17：30**	**「閉会の辞」** MIT **インダストリアル・パフォーマンス・センター教授** **スザンヌ・バーガー**